

初山別村 障がい児等支援体制整備について ～令和5年度 連携推進地域の取り組み～



R6. 12. 4

初山別村役場 住民課 健康福祉係
主幹兼保健師長 本間 あつ子

しょさまる

1 初山別村の概要

村の人口

○総人口（2024.9.30現在）	1,024人
○世帯数	508世帯
○65歳以上	403人（高齢化率:39.4%）
○後期高齢者（75歳以上）	235人



出生数 1人 ～ 9人
(R5 1人 R4 7人 R3 3人)



- ・日本海に面する小さな村
- ・夏は景色も綺麗で過ごしやすいが冬は吹雪く
- ・託児所1箇所(7人) 保育所1箇所(15人)
小学校1箇所(43人) 中学校1箇所(19人)

2 初山別村の子育て世代等の傾向と課題

- ・ 出生数の減少
- ・ 産後ケア事業未実施→今後実施予定。
- ・ 5歳児健診未実施→今後実施予定。
- ・ 共働きが多く、以前より保健事業（育児教室など）への参加者が減少しており、保健師が関わる機会が少なくなっている
母子の交流の機会が得られにくい
 - ・ 発達支援が必要な子がいる
 - ・ 偏食・アレルギーの子が多い
 - ・ スマホ・タブレットに頼る育児

3 連携推進地域の指定について

- ・ R5.2.15「障がい児等支援体制整備事業」
実施協力依頼に係る説明会（zoom）
- ・ R5.5連携推進地域の指定を受ける
- ・ R5.5.24「障がい児等支援体制整備事業」
に係る打ち合わせ（zoom）を予定していた
が延期
- ・ R5.9.29「障がい児等支援体制整備事業」
に係る打ち合わせ（zoom）

留萌振興局社会福祉課、留萌教育局教育支援課、発達障害者
支援道北地域センターきたのまち、発達支援センターにじい
ろ、村（住民課健康福祉係、教育委員会学校教育係）

4 取り組み前の状況

- ・教育委員会主催の「特別支援教育連携協議会」「いじめ不登校等対策協議会」を年1回開催し、教育委員会、小学校、中学校、保健師、羽幌町臨床心理士でケースの情報共有・処遇検討を実施していたが、定期的な開催には至っていなかった。児童数は減少しているが、対応が必要なケースは増えている印象。

- ・不登校や配慮が必要なケースに早期対応するため、定期開催とし、幼少期からの情報共有等も併せて行うこととした。

5 取り組み内容 1

- 「特別支援教育連携協議会」の開催
 - ・発達的な課題等についての情報共有や個別のケース検討（羽幌町臨床心理士参加）
 - ・年4回、定期開催
 - ・実施実績
 - 第1回（R5.9.22）9名参加（小学教員3・中学教員3・保健師・教育委員会1・羽幌町臨床心理士）
 - 第2回（R5.12.5）11名参加（小学教員3・中学教員3・保健師・教育委員会3・羽幌町臨床心理士）
 - 第3回（R5.12.25）初山別村療育研修会16名参加（小学教員5・中学教員5・保育所1・役場4・教育委員会1）
 - 第4回（R6.3.4）8名参加（小学教員2・中学教員3・保健師・教育委員会1・羽幌町臨床心理士）

5 取り組み内容 2

- 羽幌町臨床心理士の訪問及び助言
 - ・月1回程度、小学校及び中学校に訪問し、ケースの状況の共有や、対応方法について助言
- 研修会の実施（チーム初山別の体制整備）
 - ・療育研修会（R5.12.25）「問題を抱える子どもの保護者対応について考える」
講師：羽幌町臨床心理士
内容：子どもが抱える問題と要因や適切な支援について
- 「成長等の記録」の作成
 - ・案について検討
 - ・保健師の母子保健研修会における上川町「成長等の記録すくらむ」及び他自治体の取組の情報収集

6 取り組みによる成果 1

- ①特別支援教育連携推進協議会の定例開催
 - ・小学校、中学校、保健師、羽幌町臨床心理士でのケース検討や、幼少期の様子や家庭状況を情報交換することにより、ケースの理解に繋がった。臨床心理士が、ケースの状況や対処方法を説明してくれるので、ケースの特徴が分かりその後の対応方法がイメージ出来る。専門職が会議に入ることによって、有意義な会議となった。
 - ・医療機関受診の予約や医師への情報提供を保健師が担うことにより、医療機関受診に繋がった。
 - ・医療機関及び学校と情報を共有し、有効な支援について検討する場とすることができた。
 - ・昨年までは年1度の開催であったが、年4回の開催を予定し、研修会を含む4回の実施であった。

6 取り組みによる成果 2

②初山別村療育研修会の開催

- ・羽幌町臨床心理士に講師を依頼し実施。
- ・参集範囲を保育所、小学校、中学校、保健師、教育委員会とし、16名が参加。
- ・留萌中部地域療育部会（羽幌町）での研修会には初山別村の機関から大勢が参加することが難しい。留萌中部地域療育部会での研修内容と同様とした。
- ・研修会の時期を冬季休業初日とし、教諭が参加しやすいよう配慮したことにより多くの参加があった。
- ・講演や意見交換会を実施し、ニーズの把握や今後の方向性の検討を行う機会とすることができた。



7 取り組み後の状況

- ・特別支援教育連携推進協議会の定期開催等、各関係機関が連携することで有効な支援に繋がった。
- ・研修会の実施により、地域のニーズを把握することができた。

8 今後の課題

- ・研修会の参集範囲を見直し、専門性の向上の有効な機会とする必要がある。
- ・「成長等の記録」が試案の段階である。

9 今後の取り組み予定

- ・「成長等の記録」の作成にあたり、保健師が他の市町村での取り組みについて情報収集を行う。研修会への参加で学びを深める。
- ・「成長の等記録」作成後、関係機関や保護者への説明、配布、活用のための体制を構築する。
- ・「特別支援教育連携協議会」の定例開催（年4回を予定）。
- ・療育研修会・意見交換会の実施（年1回を予定）。

10 初山別村保健師が大切にしていること

親子の健やかな成長のための切れ目のない支援

- ・妊娠届出時から、情報収集し、支援の必要があるケースについては関わりを持つ
- ・託児所・保育所などの関係機関への情報の引き継ぎの機会を確保
- ・託児所・保育所、発達支援センターにじいろとの発達相談の機会の確保
- ・小中学校との連携（幼少期からの情報提供）

参考資料1 初山別村母子保健事業



参考資料2 関係機関

医療機関

北海道立旭川
子ども総合
療育センター

道立羽幌病院

道内医療機関

留萌市立病院

初山別診療所

留萌振興局
保健環境部
社会福祉課
保健行政室

留萌圏域障がい者総合
相談支援センター
ウエルアナザーデザイン

相談支援事業所
あさのは

NPO法人いちえ放課後等
デイサービスいちえ

留萌保健所

羽幌町 心理士

地域の関係団体

留萌中部地域
子ども発達支援センター
にじいろ

旭川児童相談所

児童相談所

民間機関

保健師

村教育委員会

ふじみへき地保育所

初山別小学校

村の保育所・教育機関等

ささえ愛ネットワーク子ども部会(要保協)

託児所エルム

初山別中学校

放課後児童クラブ ひかり